

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14013 (14011) (14012)	芸術と風土 (芸術と風土A) (芸術と風土B)	2単位 前期	1~4	講義	栗国 恭子 (非) ハラ アリーナ アレクサンドラ (非) 麻生 伸一 (コーディネーター)

■テーマ 「風土」から地域・芸術を考える

■授業の概要

過去から現代までの人びとの生活や、祭祀・芸能、芸術活動を取りあげ、「風土」と人間社会との関係や結びつきについて概観します。芸術を志向する多様な学生が受講することに鑑み、複数の教員が担当となりそれぞれの専門分野に即した講義を行います。

前半では琉球・沖縄の「風土」観について、後半では沖縄県立芸術大学の先生をお招きし、「風土」と表現（芸術活動）とのかかわりについて実習を交えながら学びます。

■到達目標

- ・「風土」と人類の営為の関係について、具体的に説明することができる

■授業計画・方法

複数の教員がオムニバス形式で行います。

1. ガイダンス／「風土」とはなにか（麻生伸一）
2. 民族芸術① 空間認識論—風土と聖なる空間、宇宙観、他界観、異界、空間認識とデザイン（栗国恭子）
3. 民族芸術② 沖縄の心意・美意識—風土と祈りの形、飛翔する<聖>、空飛ぶものと異界（栗国恭子）
4. 民族芸術③ 五感の文化—風土と香りの文化、香料とアジア・沖縄文化（丁子、ヤマクニブ、香）（栗国恭子）
5. 民族芸術④ 五感の文化—風土と色彩の文化、表象文化と色彩、技術と色彩（栗国恭子）
6. 「風土」と時代性①：子どもの表象（麻生伸一）
7. 「風土」としての「シマ」①：シマの想像力・記憶・記録（ハラ アリーナ アレクサンドラ）
8. 「風土」としての「シマ」②：祭りが語る「シマ」（ハラ アリーナ アレクサンドラ）
9. 「風土」としての「シマ」③：シマの「英雄」（ハラ アリーナ アレクサンドラ）
10. 「風土」としての「シマ」④：島々の関係性と神話（ハラ アリーナ アレクサンドラ）
11. 「風土」からみる芸術世界①：三線と琉球沖縄の風土（山内昌也・麻生伸一）
12. 「風土」からみる芸術世界②：三線実習（山内昌也・麻生伸一）
13. 「風土」からみる芸術世界③：三線実習（山内昌也・麻生伸一）
14. 「風土」からみる芸術世界④：三線実習まとめ（山内昌也・麻生伸一）
15. 「風土」と時代性②：戦後の表象／まとめ（麻生伸一） 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・沖縄各地で行われている祭り、学内外で行われる舞台・演奏会などを見に行くこと。行事、イベント等については講師がその都度紹介する。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（20%）、レポート（2回、合計80%）。平常点は講義への参加状況により総合的に判断する。講義後にリアクションペーパーを課すこともある。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献

和辻哲郎『風土—人間学的考察』（岩波書店、1979年）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14023 (14021) (14022)	芸術と科学 (芸術と科学A) (芸術と科学B)	2単位 後期	1~4	講義	藤田 喜久 渡久地 健 (非) 北村 誠 (非) 宮崎 悠 (非)

■テーマ 「芸術」と「科学」との関係性（多様性・類似性・相違性など）

■授業の概要

様々な科学分野（自然科学や人文科学）を専門とするゲストスピーカー（講師）を招聘し、芸術と科学との関係性についての話題を提供する。

■到達目標

- ・「芸術」と「科学」との関係性（多様性・類似性・相違性など）について理解する。
- ・「芸術観」や「科学観」について自らの考えを持つことができる。

■授業計画・方法

パソコンによるプレゼンテーション、板書、DVD鑑賞、その他様々な視覚資料を利用して講義を進める。

- (1) 講義ガイダンス：芸術と科学との関わり（担当教員：藤田喜久）
- (2) 琉球絵画・紅型と亜熱帯の自然／コラム：W・モリスのデザイン（渡久地 健）
- (3) 田中一村絵画を植物地理学から見る／コラム：江戸花鳥画と本草学（渡久地 健）
- (4) 南島歌謡をサンゴ礁地形学から読む／コラム：文学と植物学（渡久地 健）
- (5) 西洋絵画にみるエコロジー思想／コラム：文学と自然地理学（渡久地 健）
- (6) 芸術作品に関わる様々な化学物質（北村 誠）
- (7) 分子の構造とその機能（北村 誠）
- (8) 匂いの科学（北村 誠）
- (9) 光の性質、「色」とは何か（宮崎 悠）
- (10) 生物の色彩とその機能、生物の視覚について（宮崎 悠）
- (11) いろいろな「色の仕組み」ー構造色、蛍光、発光（宮崎 悠）
- (12) 文化や芸術の中に見る自然・生物の造形や色彩（宮崎 悠）
- (13) 生物の形と機能（藤田喜久）
- (14) 音にまつわる生物学（藤田喜久）
- (15) サイエнтиフィックアート / まとめ（定期試験は実施しない）（藤田喜久）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・毎回の講義では、講義内容を要約したプリントを配布する。授業時間外の宿題として、ごく簡単なレポート課題を不定期に与えることもあるので、毎回の講義を欠席しないようにすること。
- ・2回目の講義からゲストスピーカー（講師）が担当するため、各自登録をすませておく事。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（60%）、期末レポート（40%）の内容で総合的に判断する。「平常点」は、授業への参加状況と毎回のコメントペーパーの内容により総合的に判断する。「期末レポート」は、期末試験の代替として課し（提出期限の2週間前までに課題を提示する）、提出内容により評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：特に指定せず、毎回講義時に資料を配布する。
- 参考文献：講義中に適時教示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14033 (14031) (14032)	言語と文化 (言語と文化A) (言語と文化B)	2単位 後期	1~4	講義	仲原 穰 (非) 新城 和博 (非) 波平 八郎 (コーディネーター)

■テーマ

言葉がものの考え方や文化をある程度規定することを理解する。また、文化的なことがらを言葉で表現する力を付ける。

■授業概要

「言語」は単なる表現・伝達的手段ではなく、手段を超えて考え方の枠組みを作るものとして捉えられている。「文化」もそのような言語との相互作用によって生みだされるものである。本講義は「現代文化」と「言語」との相互作用の関係を複数の教員が講義する。まずは沖縄語の概要を学び、文化の基層に言葉が根付いていることを理解する。次に現代沖縄のポピュラー文化の中にウチナーグチを見いだし、文化が言葉を通して継承されていることを理解する。

■到達目標

文化と言語の相互作用の関係を理解する。また、言語がバイアス (かたよった物の見方) を生みだすことを理解する。

■授業計画・方法

- (1) 履修ガイダンス
- (2) ウチナーグチ (沖縄語) (1) (仲原穰)
- (3) // (2)
- (4) // (3)
- (5) // (4)
- (6) // (5)
- (7) // (6) レポート1提出・前半授業のまとめ
- (8) 沖縄のポピュラー文化とことば (1) (新城和博)
- (9) // (2)
- (10) // (3)
- (11) // (4)
- (12) // (5)
- (13) // (6)
- (14) レポート2提出・後半授業のまとめ
- (15) 授業全体のまとめ (定期試験は実施しない)

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

各教員によりレポート等が課される。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (出席を含む50%)・レポート (50%) を総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書

なし。授業中に適宜プリント等を配布する。

□参考文献

各教員が適宜指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14041	沖縄学	2単位 前期	1～4	講義	久万田晋・鈴木耕太・新田摂子 (コーディネーター)

■テーマ 組踊について多角的に考える

■授業概要

本講座は、1719年に初演され、今年で300年の節目を迎える「組踊」について学ぶ事を目的としている。

組踊は琉球古典語、琉球古典音楽、琉球舞踊を基本とした所作の3つの要素で構成された琉球の古典劇である。尚敬王冊封の際、躍奉行に任命された玉城朝薫によって創作され、その後の行われた冊封の宴席に必ず供される芸能であった。

明治以降は各地の芝居小屋や村芝居などで演ぜられ、戦後は国の重要無形文化財に指定される。現在は組踊の地謡・立方ともに人間国宝に指定され、若手の育成や「新作組踊」の創作など、今後の組踊という芸術の展開も期待できる。

本講座は組踊の記念すべき年に、研究・実演の分野から専門家を招き、組踊についてさまざまな立場・角度から最新の研究成果や芸談を語っていただき、組踊そのものや組踊研究に興味を持っていただく内容としたい。

■到達目標

組踊という芸術文化についての的確に把握し、理解すること。

■授業計画・方法

※各講師の日程・講義内容は変更の可能性があります。

- 第1回 (4/3) オリエンテーション (全体テーマ：組踊を多角的に考える) 久万田晋・鈴木耕太・新田摂子
- 第2回 (4/10) 鈴木耕太 (附属研究所専任講師) 「組踊とは～鑑賞のすすめ」
- 第3回 (4/17) 崎原綾乃 (琉球大学附属図書館専門員) 「近世における組踊上演について」
- 第4回 (4/24) 鈴木耕太 (附属研究所専任講師) 「近代～戦前における組踊上演について」
- 第5回 (5/8) 茂木仁史 (国立劇場おきなわ運営財団調査養成課長) 「組踊と舞台」
- 第6回 (5/22) 麻生伸一 (全学教育センター准教授) 「冊封と芸能～儀礼としての観点から」
- 第7回 (5/29) 我部大和 (附属研究所共同研究員) 「故事集～組踊の漢訳について～」
- 第8回 (6/5) 西岡敏 (沖縄国際大学教授) 「組踊の台詞について～敬語表現から」
- 第9回 (6/12) 金城裕幸 (組踊道具・衣装製作技術者) 「組踊の小道具について」
- 第10回 (6/19) 新垣俊道 (本学非常勤講師・「子の会」代表) 「組踊と琉球古典音楽」
- 第11回 (6/26) 嘉数道彦 (国立劇場おきなわ芸術監督) 「新作組踊について」
- 第12回 (7/3) 宮城能鳳 (組踊立方人間国宝 県立芸大名誉教授) 「私と組踊」
- 第13回 (7/10) 西江喜春 (組踊音楽歌三線人間国宝 県立芸大名誉教授) 「私と組踊」
- 第14回 (7/17) 大城學 (琉球大学元教授) 「沖縄各地の組踊」
- 第15回 (7/24) 鈴木耕太 (附属研究所専任講師) 「組踊を研究すること」

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

受講生は毎回の講義で取り上げられる諸ジャンルの研究概況・作品等について、事前に学習しておく。各回の講義で取り上げられた参考文献に目を通して復習すること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 出席状況 (40%) と期末レポートの評価 (60%) を総合的に判断する。
※レポートは、本講座全体について、あるいは興味を持った特定の分野・領域について執筆することとする。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
琉球・沖縄芸術各分野特有の美意識について十分な理解ができているかどうか。
自分自身の演奏・創作と対象分野の関係性が適切に把握できているかどうか。

■教科書・参考文献 (作品) 等

講義の中で各教員が適宜指定する。

■備考

期間：2019年4月～2019年7月 (前期期間) の水曜日午後6時30分～8時00分

場所：沖縄県立芸術大学附属研究所3階小講堂

※第1回のオリエンテーションは4月3日 (水) 12時～12時30分 (当蔵キャンパス一般教育棟3階大講義室)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14051	芸術とキャリアデザインⅠ	各2単位 前・後期	1～4	講義	全学教育センター長 コーディネーター：新本京子

■**テーマ** 自分のキャリア(進路)をデザイン(設計)していく授業。

■授業の概要

進路については複合的であり正解は一つではないことから、自分の個性、価値観、能力の自己確認が必要とされる。ワークショップ参加型の授業により、自分についての発見や気づきを得、それにより自主的で県芸生らしい自分独自のキャリアをデザイン(設計)し、いきいきと行動することができるようになることが目的。本科目では各担当教員の実務経験を活かして、県芸生としての自身の「魅力」と「可能性」について考え、自分の進路についてイメージし、本学で学んだ事を社会に繋げていくことの意義や意味を深く捉えることにより、納得のいく主体的なキャンパスライフを送り、その後のキャリアデザイン(進路設計)に活かすことを目指す。

■到達目標

- ・キャリアデザインに係る自らの意思を明確に論理的に述べることができる。
- ・授業の中で多くの学友やOB・OG、企業人等、他者との交流をとおして自発的に他者とのコミュニケーションを円滑に行える。

■授業計画・方法

主にテーマに沿ったワークショップで参加型の授業を進め、他者との分かちあい・気づきあいをとおして他者とのコミュニケーションを円滑に行うとともに自己理解を深め、自分の将来像を探り、授業期間中のフィードバックシート(振り返り)により自己表現力を高めていく。

1. ガイダンス。授業全体についての説明。
2. 自分について考えてみよう(1)
3. 自分について考えてみよう(2)
4. 多様な進路の可能性(1)～探求編
5. 多様な進路の可能性(2)～情報収集編
6. 芸大での学びを活かそう
7. プロフェッショナルに聞く(1)～本学OB・OG編
8. プロフェッショナルに聞く(2)～企業人編
9. 社会の課題・大学生の課題
10. コミュニケーション力を鍛えよう
11. プレゼン力・チーム力
12. 自分らしいキャンパスライフプランを立てよう
13. 情報収集力～ネットワークとフットワーク
14. 自分らしいキャリアをデザインしよう
15. **定期試験は実施しない。授業の振り返り及び解説・まとめの後、最終フィードバックシート提出。**

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・複数のゲストスピーカーによる講義方式。テーマによっては事前配布資料を元に自分の意見を発表できるように事前学習(授業以外の学習)を行い、記述シートを提出する。
- ・学期中に「参考文献」に掲げた中から3冊以上を読み、コメントペーパーを提出する。
- ・他者との交流や将来の自分の理想の姿(目標)に対しての興味・関心・探求意欲を持って臨んで欲しい。

■成績評価の方法・基準

- 方法 ・平常点（30％）、授業期間中のフィードバックシート（振り返り）及び授業以外の学習シート（20％）、最終フィードバックシート（50％）。
- ・平常点は授業への参加状況。フィードバックシート等の記述内容においては『キャリアデザインに係る自らの意思を明確に論理的に述べることができるか。』『自発的に他者とのコミュニケーションを円滑に行えるか。』等を基準とし、総合的に評価する。
- 基準 「到達目標」を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に測り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 使用文献：ゲストスピーカーが適宜プリントを配布する。
- 参考文献：「自分をいかして生きる」
 - 「新装版 ほぼ日の就職論「はたらきたい。」
 - 「佐藤可土和のクリエイティブシンキング」
 - 「ふむふむーおしえて、お仕事！」
 - 「私らしく」働くこと～自分らしく生きる「仕事のカタチ」のつくり方（進路情報コーナーに開架）